

## 石狩川（下流）水系流域治水協議会（第1回）議事概要

■開催日： 令和2年9月23日（水）

■開催方法： 書面会議

■関係者： 協議会構成員

■議題：

- （1）気候変動を踏まえた「流域治水」への転換について
- （2）石狩川（下流）水系流域治水協議会の設置について
- （3）協議会での検討事項と今後の進め方（案）について
- （4）流域治水プロジェクト中間とりまとめ（案）について

■議事結果：

議題（1）について

<意見または質問>

意見等なし

議題（1）は、了承された。

議題（2）について

<意見または質問>

滝川市

○規約(案)第5条（地域部会）について

・雨竜川外地域部会は、構成市町も多く本川と支川の何れにしか接しない自治体もあることから、部会を細分化（雨竜川/石狩川）することの方が議論等の活発化が見込まれる。（期成会の構成や取組み、集合体としても議論等の円滑化が見込まれる。）

（事務局からの回答）

・ご意見のとおり、各地域における流域対策の取組内容について、議論の活発化、円滑化が図られるように会議を運営して行きたいと考えております。

ご意見を踏まえて、構成市町の多い雨竜川外地域部会においては、他の構成機関のご意見も踏まえつつ、会議の構成をより細分化するなど会議の運営を工夫してまいります。

江別市

○次の理由から、国や北海道などの農業部局の参画を希望します。

・設立趣旨において、「流域全体のあらゆる関係者が協働し、流域全体で水害を軽減させる治水対策“流域治水”を推進する」と記載されていること。

・資料-1（P4）の「流域治水への転換」“①氾濫をできるだけ防ぐ”及び“②被害対象を減少させる”において、「田んぼやため池等の治水利用」との記載があり、農業所管部局との調整を要すること。

・当市は石狩川の下流に位置しており、市内において、夕張川、千歳川、豊平川、篠津川（運河）などの大支川が合流し、緩やかな河川勾配であることなどの地理的条件から、市内及び近郊において19もの農業所管の排水機場があり、内水排除施設が重要な要素となっていること。

・北海道の稲作作付面積は全国2位であり石狩川流域において道内の約7割の収量であること、また、ブロッコリーにおいては江別市が作付、収量において道内1位であり、千歳川流域産は道内で3割の生産シェアであるなど、全国の食糧供給基地となっていること。

（事務局からの回答）

・各地域における流域対策の取組内容に関係する機関については、議論の活発化、円滑化が図られるように、頂いたご意見も踏まえながら、必要に応じて関係機関の参加を調整してまいります。

議題（2）は、了承された。

議題（3）について

<意見または質問>

意見等なし

議題（3）は、了承された。

議題（4）について

<意見または質問>

沼田町

・流域治水プロジェクト中間とりまとめ（案）の3/4（P. 3）黄枠の「・利水ダム等58ダムにおける事前放流等の実施、体制構築（関係者：国、北海道、電力会社、土地改良区など）等」について

国内における近年の水害の激甚化等を踏まえると、北海道においても何時同様の水害が発生してもおかしくありません。そのためにも、即座に対応できる事前放流体制の構築に加え、事前放流に向けたシミュレーションの作成、試験運用の実施と評価、関係機関団体による一斉事前放流訓練の実施など、それぞれが共通に意識を持って取り組むことが重要と考えますので、よろしく願いいたします。

（事務局からの回答）

・石狩川水系（下流）における既存ダムの洪水調節機能強化の取り組みは、河川管理者、ダム管理者、関係利水者（ダムに権利を有する者）により設置された「石狩川水系（下流）既存ダムの洪水調節機能強化に係る協議の場（以下「協議の場」という）における協議を経

て、令和2年5月29日に、「石狩川水系（下流）治水協定」を締結し、運用に向けて操作規程変更等の諸手続きを進めてきたところですが、ご意見のとおり、訓練等の取り組みは重要であり、今後、協議の場の事務局より情報提供を図りたいと考えております。

なお、既存ダムของ洪水調節機能強化の取り組みは、流域治水プロジェクトに反映させるなど、関係機関が連携しながら各種取組を進めていきたいと考えております。

議題（4）は、了承された。

（以上）